

# 幼兒の遊戯は如何に

指導す可きか (承前)

後藤ちとせ

## 遊戯と樂器

學校で用ゐる樂器といふとピアノ、オルガン、ヴァイオリンの三つですが幼稚園の遊戯室には出来る事ならピアノを用ゐるが宜しう御座います。何故と申しますと遊戯は愉快なものの活潑なものの面白きもので御座いますから之に伴ふ樂器もピアノの様な活潑なるもので笑ふが如く躍るが如きものが適當して居る扱て立派な樂器が出来たとしても彈奏者の巧拙如何に因りては折角の美音も其効をなさぬ事がありますから次には彈奏上の心得を少し御話いたしませう。

遊戯の際に於ける樂器使用上の心得

一、彈奏者は保育に必要な樂曲を暗んじ十分練習の上目よく幼兒等を管視し口よく之をうたひつゝ手なほ誤りなく彈奏し得る様でなくてはな

りません目は鍵盤を見るに奪はれ心は彈奏の誤りなからんことに汲々たる有様ではとても物になりません

十四

二、行進に用ゐる樂曲は單純で而も優美なるものを數多く練習し一行進中にも屢々面白きを彈き代へて變化を好む幼兒をして心の満足を得しむる様しなければなりません但し一の曲目より他曲にうつる際は必ず拍子に注意して步調を亂させぬ様に致すべきです

三、遊嬉の動作の如何を考へ樂器の方も手加減をして一遊嬉中でも動作の活潑なところは樂器の方も活潑に舉止しとやかな部分は一方も穩かに弾く様に緩急時に應じて宜しきを得る様注意すべきです例へば蓮花の遊戯に於て歌の最後の一小節

「何時の間にかしげんだ」

「何時の間にか開いた」

のところが特に緩かに弾き且つうたつて子供等の環の閉閉に便ならしむるが如きです

四、又幼兒の方にも注意をして常に樂器の音の強

弱緩急に氣をつけさせ遊戯行進共によく之に合はさしむる様にし保育者は無言で居つても樂器の加減で或は早く或は緩かに或は活潑に或はやさしげに動作せしめ得る練習をさせるのが彼等の聴覺並に心的活動を敏捷にする上に効が

五

樂器演奏者、遊戯指導者と二人で一組の遊戯を受持つ場合には豫め兩人の間によく打ち合せをして置き演奏者は常に補助の位置に立つて指導者の意を汲みとり指導者をして遺憾なく其思ふ所を實行させねばなりません然るに兩者間若しよく打合せがしてありませんと指導者が早く歩かせ様と思ふのに演奏者が緩かな弾き方をしたり早く弾き始めて呉れ、ばよいと思ふのに躊躇して見たりする其間に幼児の方は隙を生じて騒ぎ出すといふ事になりますから兩者の意志よく相疎通して間斷なく保育を進行させて幼児をして雑念を起させる暇のない様導かねばなりません

六

樂器を利用して諸般の合圖となしなるべく餘

計な説明命令をばよくが宜しう御座います例へば幼児と約束して或るマーチを弾き初むれば必ず一列より二列にうつるとかある唱歌を弾かれば直線より圓形に變るとか高音部の三間音を弾かれば何時でも遊戯を中止するとか或る曲を弾き出さるれば必ず眠る眞似をしようとかがいふが如きで、此方法を頭に用ゐますと復習の材料の際などには凡て樂器の合圖を用ゐる保母何等の命令説明の語を用ひずして幼児をして隨意に活動せしむることが出来ます

一、樂器の位置は前述の如く幼児全体を見渡し得る様に備へ置くべきです

指導遊戯に於ける保育者の心得

一、幼児をしてなるべく束縛の下にあるの感を生じさせしめざらんとが大事であります子供に向つて指揮命令するを少なく保母の口數が少なき程子供にとつては命令せられて居る感じが少ないほど幼児は活動し保母の口數が多い程幼児は器械的になるといふことがあります同じ喋々の遊戯でも子供が進んで之をやらうといふ時と保母に

命ぜられてさせらるゝのとは子供の興味を感ずる上にとれ程の相違がありませう實に遊戯の生死のわけ目である遊嬉はどこまでも遊びたらずるべからず仕事たるべからず

二、保育者は始終目を全体の子供に注ぎ時の間もこの子供は今どうして居るかと思ふことに注意しあやまれるものは手早くなしふぎ居るものは目つき態等手輕さ合圖によりて注意を促すべきで保育者の目の幼児全体にわたらずある一方に偏するのは悪戯幼児の生ずる主なる原因であるを忘れてはなりません

三、遊嬉の際には不必要なる言葉はなるべく之をさけ樂器其他の利用をして凡て保育を敏捷に進ましむる必要がありませう

四、説明や命令を出す際は必ず適當なる場合に於てしなれば殆んど無効なるがあります即ち幼児等の注意のまとまらぬ時或はさわぎ立てる折等は保育者がいくら大聲を發して物語るも一般幼児をして十分之を聞きとらしむる事が出来ず却つて保育者の品格を損ふのみですから此様な

場合には先づ唱歌をうたはせるとか靜な遊戯をさせるとかして心をまとめて後直ちに發言すべきです

一、遊嬉から他遊嬉にうつる折はなるべく敏活にうつして幼児をして雜談若しくは惡嬉等を始むる間暇を興へぬ様すべきです

六、特に一人或は數人の子供に他兒と異つた事をさせる際例へば猫鼠の遊嬉に於ける猫と鼠とが風車に於ける心とかかさよくの雀の如きものには先活潑にして好奇心あり進取的の氣象に當める幼児をして之に當らしめ其愉快な様子を賞め陰鬱不進取の子として己も亦彼の兒の愉快を得んとする氣を起さしむるが宜しう御座います

七、狭き室も用お様によつては廣くつかふ事が出来ず廣しというても室内に於て遊嬉行進の練習をせしむるのでありますから保育者は常に室を廣くつかふことに注意せねばなりません

八、遊戯指導者の動作は輕快且優美にして幼児が自然これに倣うて美的に動作する様導かねばな

りません

九、幼児にある動作を命ずる場合例へばこちらへ  
來なさいとか左を向けとかいふ際は言語によつて之に應ぜしむべく保育者の手を下して幼児をひつぱりたり押ししたり肩を押へて向きなほさしたりするとは誠によろしくない仕方で御座います  
す幼児たとへ幼なくとも其人格を貴うんでやり決して物品扱ひに見える様な事があつてはなりません

十、一つの命令を出したなら必ず之に従はしむべく命令を出しておきながら其實行を十分させないなら却つて命令を何とも思はぬ悪習慣をつける事になりますから行はれ難いとは決して命令せず禁止せぬ様にすべし必要あり可能と見て出した命令ならどこまでも守らせねばなりません  
十一、遊嬉の途中で幼児等が騒ぎ出してメチャクチャになつてしまつた場合には言葉での禁止制裁は此場合小供の耳に入らず只室内を不愉快な空氣に滿される計りですから保育者に機轉を利かして幼児の氣を轉ぜしむる方法例へば幼児等

の如く唱歌を弾き出して思はず知らず唱ふ氣にならしたり平素約束してある何かの合圖で漸く他の遊戯にうつらしむる等口で叱りつける事を避けて而も巧みに静める方法をとらねばなりません

十二、個人性に注意して愚鈍な子にはなるべく猫鼠の如き敏捷な役に當らせ氣のきかぬ子には探物の探手の様な役をさせて其缺點を矯正する様つとめねばなりません

十三、特別な遊び手に(風車の心の如き役)何時もきまつた子供をさせるのは幼児をして不公平を思はしめ其兒には傲慢他兒には自暴自棄の念を起させる弊があつていけませんどの子でも保育者の命の下にすんぐ出て何事でもやれる様導かねばなりません

十四、右の場合若し因循でひとり出て何かするのがいやだといふ子がありましたら其は注意してまづよく出来る子にやらせたあとにか若しくは上手な世話の出来る他の子とか若しくは保母と一緒に其の役に當らせ追々獨りで出られる様に

鑿けるが宜しう御座います

十五、遊戯の際はとかく塵か立ち易う御座います

から尤も換氣法に注意しなければなりません

十六、遊戯はなるべく美的にやらせるかよろしく

従つて保姆も外観の美を粧ふ様な動作をつゝ

しまなければなりません

十七、競争に類した遊嬉には不清廉の行のなき様

注意させる事が必要です

十八、指導遊嬉をなすに當り保育者がまづ第一に

心掛くべき事は保育者自身子供となりて遊嬉を

心から愉快に思ふて居らねば樂しき遊嬉は見ら

れません大きい身体をして子供ほい事をするの

は馬鹿げて居るなど考へるのは保育の眞價や

貴重さを知らず淺果敢な事で御座います

十九、全一唱歌にも保育者の工夫によりては種々

の遊戯が作り出さるゝこと風車の遊嬉に數通り

あるが如くなすことが出来すから幼児年齢の長

するに従ひ漸次複雑な遊戯形に變へ行くは全く

異なる遊嬉を受けざるよりも面白がることがあり

ます子供に尙甚だしき變化よりも或小部分の變

化が却つて喜ばる 場合が多いものです  
二十、季節に相應じたる遊嬉をなさしむる事に  
とめよ

地球の將來 (水面消滅の説)

船暈が厭やだからと言ふて航海を嫌ふ人は、  
暫らく待つが可い、今に船便に依らずして地  
球上何處にも到ることが出来る様になるとは  
或科學者が眞面目に説いた話だ星學者其他化  
學者の研究に由ると地球は將來火星と同一の  
運命に出遭ふに違ひない、火星を絶えず其表  
面より水分を蒸發して居るが故に曾て其大洋  
の底であつた土地は今に鬱々たる深林となつ  
て居り又曾て樹木の繁茂して居つた表は今に  
礫確たる砂地に變化したる如く、地球も又た  
水分蒸騰の盛なる爲に益々乾燥になつて來た  
から、此後數多の年月經過の後には今日車馬  
絡繹の都會も地層乾涸して水なく木なき沙漠  
となり、又今日難船衝突の災殃絶へざる洋海  
の底地も遠き將來に於て、菜園樹園に一變す  
るは疑ふべきことでないとの言だ。